

第1回ラートソリューションズカップ 動画撮影規程

2022年01月20日

ラート競技部門については、提出された映像を使い審判の採点が行われるため、公平な採点を実施できるよう、以下の規程を守って動画の撮影を行ってください。

なお、ラート競技部門以外は動画撮影規程を設けませんが、撮影日、編集可否、服装等のルールについては[実施要項](#)に記載しておりますので、動画撮影前に改めてご確認ください。

■ラート競技部門 動画撮影規程

- 動画の撮影開始後、10秒以上経ってから演技を開始すること。
- 演技を終了し、閉脚立位ポーズをした後、10秒以上経ってから停止すること。
- 大減点などによる演技中断時も撮影を停止しないこと。
- 必要に応じて三脚を使用するなど、できるだけ手ブレのないように撮影を行うこと。
- 選手の体のラインが映像越しに明確に判断できるよう、十分に明るい場所で、かつ、逆光を避けて撮影すること。
- 演技中に補助者が演技者とカメラの間に入り、演技者を隠してしまわないように注意すること。
- 映像の解像度/フレームレートは「1080p/30fps」とすること。
※iPhoneでの撮影を推奨。iPhoneの場合、以下の2つの設定を行うこと。
 - ①設定→カメラ→フォーマット→互換性優先
 - ②設定→カメラ→ビデオ撮影→1080p HD/30 fps
- 演技者およびラートまでの距離およびアングルについては種目ごとに定めた以下の内容を守ること。

①直転

- ・ 直転レーンの中央でステップを真下にした状態でラートを静止させ、ラートに対し垂直に5m離れたところから撮影を行うこと。
- ・ 撮影者はなるべく画面の中央にラートが映るよう、カメラでラートの動きを追うようにして撮影を行うこと。
- ・ 撮影者はその場から移動せずに撮影を行うこと。
- ・ 画面からラートおよび選手の体が見え出さないように撮影を行うこと。

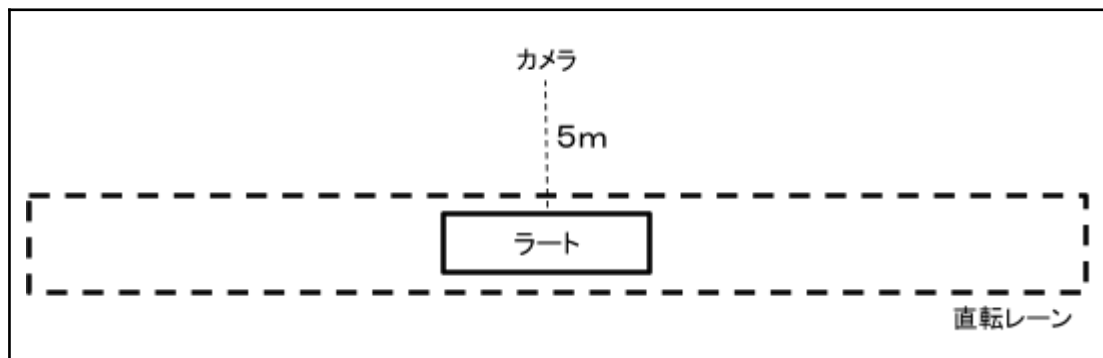


図1 直転撮影時におけるラートとカメラの位置関係

②斜転

- ・ 演技開始時のラートの位置から5～7mほど離れた位置で撮影を行うこと。
- ・ 撮影者はなるべく画面の中央にラートが映るよう、カメラでラートの動きを追うようにして撮影を行うこと。
- ・ 演技中にラートがカメラから極端に遠くなった場合、撮影者は撮影を続けながらラートの近くに移動すること。ラートとの距離は、ラートが画面の縦半分以上の大きさになることを目安とする。
- ・ 画面からラートおよび選手の体がはみ出さないように撮影を行うこと。

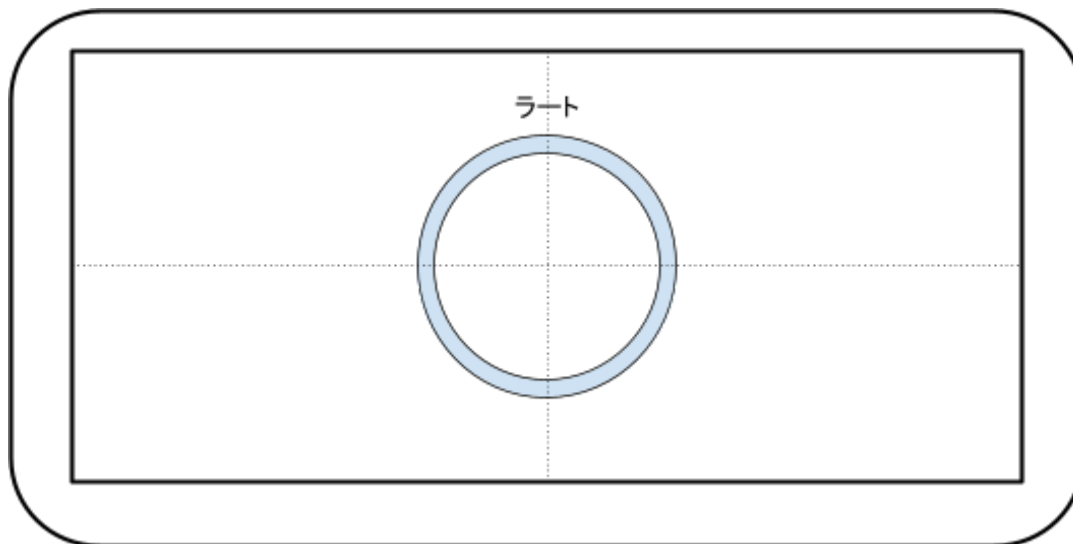


図2 斜転撮影時における画面内のラートサイズの目安

③跳躍

- ・ 90cmラインを引いて撮影を行うこと。その際、ラインは90cmの内側に引くこと。(着地の際にラインを踏んだら減点となる)
- ・ 着地マットの角を基準に着地マットと平行に1m、垂直に6m離れた位置から撮影を行うこと。
- ・ 助走の際、ラートではなく、演技者が映るように撮影を行うこと。
- ・ 選手がラートに乗ってからは、ラートおよび選手の体、手が画面からはみ出さないように撮影を行うこと。
- ・ ラートから跳び出して着地するまでの間、できるだけカメラを上下に動かさずに撮影をすること。(上下に動かさずに撮影できるだけ十分に離れて撮影を行うこと)

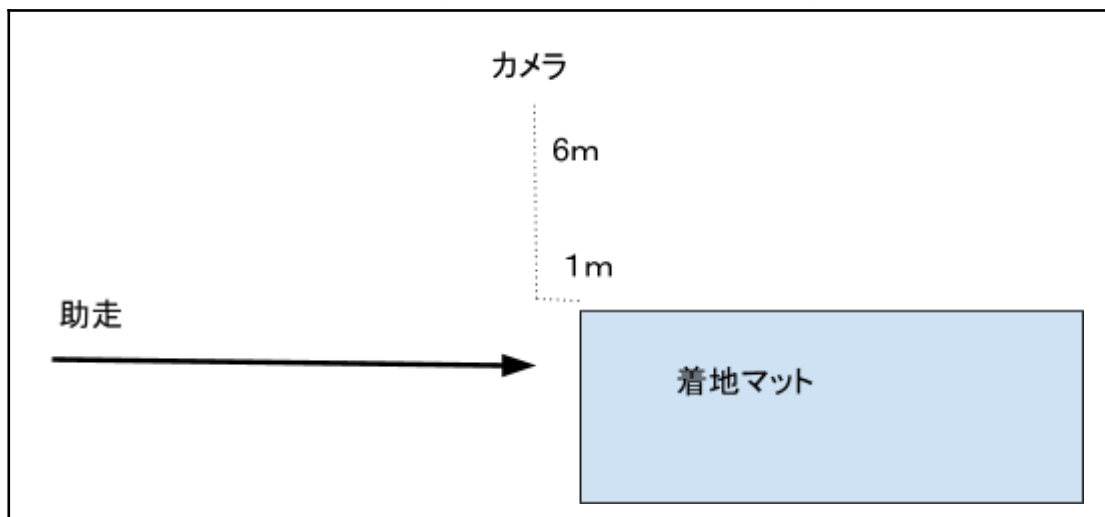


図3 跳躍撮影時における着地マットとカメラの位置関係